

平成28年度 宇都宮市立岡本北小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】

個々の特性や能力を最大限に伸ばし、心身ともに健康で、創造性と実践力に富み、「知」「徳」「体」の調和のとれた、心豊かな児童を育成する。

【具体目標】

「健康で明るい子ども」「よく考えて判断できる子ども」「思いやりのある子ども」「ねばり強く進んで実践する子ども」

☆子どものスローガン つよく やさしく かしこい子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり、創意と活力にあふれ、児童の心を動かす教育活動を展開するとともに、「安心して通うことのできる学校」「自分の力を発揮できる楽しい学校」「きまりを守り互いに尊重し合う学校」「保護者や地域から信頼される学校」を目指した学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○生命を尊重する心や思いやりの心など豊かな心、基礎学力の向上、健康や体力の保持増進など、たくましく生きる人間力の育成に努める。
- (2) 児童の学びを支える安全で潤いのある学校環境づくりに努める。
- (3) 教職員としての使命と責務を自覚し、専門職として日々研鑽に努め、個々の指導力を高めるとともに、校内の研修会をより充実し、組織としての指導力の向上を図る。
- (4) 学校、地域、家庭との連携を密にして、地域の教育力を活用しながら、開かれた学校づくりを推進する。

【古里地域学校園教育ビジョン】

夢や目標をもち、その実現に向けて、よく考え、自ら鍛え、思いやる心を磨きながら、生きる力を身に付ける児童生徒の育成

（趣旨）

児童生徒一人ひとりに、将来の夢や希望をもたせるとともに、「学ぶこと」、そして「心豊かにたくましく生きること」を自覚させ、社会的自立を目指す教育に小中が一貫して取り組む。

（研究テーマ）

「コミュニケーション能力の向上」 「学ぶ意欲の向上」

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- 児童一人一人のよさや可能性を伸ばし、困難に立ち向かうたくましい児童の育成

【学 習 指 導】

- 基礎・基本の定着と、言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成
 - ・ 姿勢や返事、話の聞き方、発表の仕方などの基本的な学習態度の徹底

【児 童 生 徒 指 導】

- 自他の人権を尊重し生き生きと自己表現できる児童の育成
 - ・ きまりを守り、互いに協力し合う児童の育成

【健康（保険安全・食育）・体力】

- 自他の健康や安全を意識し、考えて行動する児童の育成
 - ・ 年間を通した体力向上プログラムの推進

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです。」⇒児童の肯定的回答 90%以上	①児童の自己肯定感や主体性を高め、居がいを感じながら学校生活を楽しく送れるようにするため、各行事や児童会活動、北小タイム、集会活動等を工夫し、児童が主体的に活動する場を設定する。	B	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…94.4→93.4% ↓ ・①については、高学年を中心として、縦割り班活動や運動会、校内ウォークラリー、音楽朝会等の活動を通して、児童が主体的に活動する姿が多く見られた。 ・②については、学校全体で児童一人一人の特性を認め、声かけや指導する体制を整えてきた。
		②児童一人一人の特性やよさを的確に把握するとともに、話をよく聞き、声をかけ、よさを認め伸ばす指導を繰り返し行う。	B	【次年度の方針】 ・①については今後も継続を図り、活気ある学校づくりに努めていく。 ・②については、児童のよさを直接担任に知らせるだけでなく、学習情報システムの活用について全職員に周知し、充実を図っていく。
	A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は大切なところをしっかりと教え熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 90%以上	①学校経営方針や学習指導要領の理解を深め、全職員一丸となり協働して教育活動に取り組む。	B	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…98.2→97.4% ↓ ・①については、総合訪問を良い機会ととらえ、全職員による協働体制を構築しながら、教育活動に取り組むことができた。 ・②については、ねらいに照らした授業の振り返りを重視し、児童が主体的に学べる授業の展開や体制づくりに努めてきた。
		②授業のねらいの明確な提示とねらいに即した振り返りの仕方、構造的な板書等を工夫することにより、児童が主体的に学ぼうとする授業づくりを推進する。	B	・③については、全員が公開授業を行ったが、実施時期に偏りが生じてしまった。 【次年度の方針】 ・①については、学校経営方針を全職員が共通理解し、いつでも確認できるように提示方法を工夫する。 ・②については、児童には引き続きわかりやすい授業の工夫に努めるとともに、学級懇談等を通して、学校の取組を紹介し、家庭への啓発に努める。
		③互いに見せ合う一人一授業の実施により、同僚性を高めるとともに、教職員の授業力向上に努める。	B	・③については、年間を通して授業公開が偏りなくできるように、また同僚性を高め合いながら協議できるような研修を計画をする。
	A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体のアンケートの「児童は、	①「学習の約束」「生活の約束」を各教室に日常的に掲示し、指導するとともに、各家庭に配付し、約束の内容と意義を児童・保護者・職員が共有し、全職員・保護者が共通理解の下、連携して指導できるようにする。	B	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…81.6→86.2% ↑ ・①については、学級懇談会等で家庭への協力を呼びかけてきたことなどがよかった。 ・②については、月に1回振り返りタイムを設けことで、児童が「学習や生活の約束」へ

授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	②毎月「ふりかえりタイム」を設定し、きまりやマナーについて自己評価をしたり、週に一度打合せ時に生活目標の達成状況等について話し合ったりする場を設け、全職員共通理解の下、指導を繰り返す行う。	の意識を高めることにつながった。 【次年度の方針】 ・①については、授業参観や個人懇談、学級懇談などを通して、今後も家庭との連携を図ることに努めていく。 ・②については、振り返りタイムを十分に活用して指導に生かしていく。時間を守ることに課題が見られるので、授業の開始時刻に授業が始まるようにするなど、全職員が足並みをそろえて指導にあたるようにする。
A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体のアンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 90%以上 保護者の肯定的回答 80%以上	①T・T、少人数指導、習熟度別学習等を取り入れ、より効果的な指導を行うとともに、個に応じた授業の展開を工夫し、学力の向上を図る。 ②各教科等において、基礎的・基本的な知識や技能が確実に定着するように、教材教具や教育機器等を効果的に活用したり、ペア・グループ学習等の学習形態を工夫したりして、分かる魅力ある授業を実践する。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…95.2→96.0% ↑ ◇保護者の肯定的回答…84.4→83.9% ↓ ・①については、4年生以上の算数に習熟度別学習や少人数指導を取り入れ、個に応じた指導をしてきた。3年算数についても個人差がつく単元について習熟度別学習を取り入れた。その結果、少しずつではあるが底上げを図ることができた。 ・②については、学習形態を工夫したり、デジタル教科書等を活用したりして、わかる授業の実践を心がけてきた。 【次年度の方針】 ・①については、T・T、少人数指導、習熟度別学習のより効果的な指導についての話合いの場を設け、実践する。 ・②については、朝の学習を週2回計画的に実施することで基礎的・基本的な知識や技能をさらに定着させる。保護者にも授業を公開したり、学年便り等で発信したりして、理解と協力を得るようにする。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体のアンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」⇒児童の肯定的回答 90%以上、保護者の肯定的回答 80%以上	①いじめは絶対に許されない行為であることを、朝の会、帰りの会、道徳の時間、学級活動などを通して継続的に指導し、人権に配慮した学級づくりを心がけていくことにより、「いじめはしない。」という児童の意識化を図る。 ②いじめに関するアンケート調査、なんでも相談、いじめゼロ集会、いじめゼロリボンの配付、ケース会議やブロック会議の計画的かつ必要に応じた実施等、いじめの未然防止・早期発見につながる日常的な取組に加え、緊急時にはいじめ対策委員会を実施する等組織的に対応する。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…95.5→97.4% ↑ ◇保護者の肯定的回答…72.6→70.9% ↓ ・①については、朝の会、帰りの会、学年集会などを通して継続的に指導し、「いじめは絶対許さない。見逃さない。」という全職員の共通理解のもと指導にあたったのがよかった。 ・②については、問題発生時に組織的に迅速な対応ができたことはよかったが、いじめに関する実態について、保護者や地域への発信が不十分であった。 【次年度の方針】 ・①については、どのクラスも道徳の授業でいじめに係る題材を取り上げ、「いじめは絶対に許さない」という意識をさらに高める。 ・②については、児童が示す小さな変化や危険信号を見逃さないアンテナを高くもち、積極的にいじめを認知し、組織的に対応していく。また、いじめゼロ集会の持ち方、保護者への啓発の仕方を工夫し、全校体制での取組を強化し発信していく。

A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケートの「学校の日課・授業・行事などは適切に実施されている」⇒教職員・保護者の肯定的回答 90%以上	①週案による時数管理を確実にを行うとともに、学校行事終了後の振り返りや中間評価等により、次年度の教育課程の工夫改善を行う。 ②PTA、古里地域学校園、地域協議会等との十分な行事調整を図りながら、年間行事予定を作成する。	【達成状況】 ◇教職員の肯定的回答…100→100% ↑ ◇保護者の肯定的回答…95.9→97.7% ↑ ・①については、週案の時数管理は的確に実施できた。また、行事終了後の振り返りや中間評価等を十分に活用し、次年度の教育課程編成に生かすことができた。 ・②については、PTAや地域協議会等とは、執行部や地域コーディネーターを介して連携することができたが、古里地域学校園については、十分な連携を図ることができなかった。 【次年度の方針】 ・①については、児童と向き合う時間の確保に向けて、今年度以上に行事の振り返りや中間評価を活用する。充実した教育活動の実施に向け、行事の精選にも努める。 ・②については、地域学校園との連携に力を入れ、学校園として共に学ぶ教育活動についても検討し、年間行事予定に位置づけていく。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学年便りや学校公開などで積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	①年3回学校公開日（土曜授業2日、平日の授業公開1日）を設け、保護者及び地域住民への参観を呼びかける。 ②学校・学年だよりや各種便りの発行と学校ホームページの定期的な発信に努めるとともに、伝える内容の精選と見やすく分かりやすい表現についてさらに工夫する。	【達成状況】 ◇保護者の肯定的回答…96.2→96.6% ↑ ◇地域住民の肯定的回答…100→100% ↑ ・①については、計画通り実施できた。特に10月の学校公開日に行われたバザーやバグパイプの演奏会には、保護者及び地域の方が多数参加してくださった。 ・②については、学校だより、学年だより、保健だより、食育だより、図書だより、地域協議会だより等計画的に発行したり、定期的にホームページを更新したりすることができた。また、昨年以上に発信内容の精選に努めることができた。 【次年度の方針】 ・①については、次年度も年3回の学校公開を予定している。次期指導要領にも関心を向け、授業公開内容の充実を図る。 ・②については、学校の様々な教育活動が保護者や地域住民に十分に伝わっていないところもあるので、更なる内容の精選と発信の仕方の工夫に努める。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】	①PTA、地域協議会、自治会、民児協等と連携し、学校支援ボランティアの協力を得ながら、教育活動の充実や登下校の安全確保、児童の健全育成に努める。	【達成状況】 ◇教職員の肯定的回答…96.0→100% ↑ ◇保護者の肯定的回答…89.3→91.7% ↑ ◇地域住民の肯定的回答…92.9→100% ↑ ・①については、登校指導や見守り活動をは

全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等が連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	②地域にある事業所や専門性をもつ人材等の協力・参画を得た授業を積極的に取り入れ、地域の教育力を生かした教育活動をさらに推進する。	はじめ、地域の安全ボランティア、子ども110番の家の方々のご協力を得て、児童の安全や健全育成に取り組むことができた。 ・②については、今年度新たに読み聞かせボランティア、環境ボランティアを立ち上げ、児童の読書への興味・関心を高めたり、校内美化に努めたりすることができた。 【次年度の方針】 ・①②ともに、PTA及び地域協議会を軸として、児童の健全育成及び児童の現状や実態に応じた学習支援の充実に向けて、定期的に話し合いの場を設け、地域の教育力を生かした教育活動が展開できるように努める。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」⇒教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	①清掃の手順を明確にしたり、身の回りの整頓やごみを落とさない、落ちているごみは拾うなどの指導を学級活動で話し合ったりし、児童の清掃及び環境美化への意識を高める。 ②毎月の安全点検、月例検査、各教室・特別教室・資料室等の備品整理や設備修理を定期的・日常的に実施し、安全で学習しやすい環境づくりに努める。	【達成状況】 ◇教職員の肯定的回答…80.0→92.0% ↑ ◇保護者の肯定的回答…93.5→93.4% ↓ ・①については、今年度からクラブや委員会と同様に清掃の振り返りをさせたことが児童の意識を高める上で有効であった。また、環境委員から清掃の手順を伝える取組をいくつか実施し、清掃のやり方について共通理解できたのもよかった。 ・②については、月1回の安全点検を的確に実施し、迅速に対応することができた。また、総合訪問の機会をとらえ、各教室・特別教室・資料室等の備品整理や教室内・廊下・ギャラリー等の掲示を充実させることができた。 【次年度の方針】 ・①については、全校生が正しい清掃の仕方を身に付けられるように繰り返し指導をしていく。また、PTAや地域協議会を中心としたトイレ清掃への協力を呼びかける。 ・②については、今年度は総合訪問もあり、とても環境が整備されていた。次年度も、この美しい環境が維持できるように努める。
B 1 「魅力ある学校づくり地域協議会」の経営参画を積極的に進めている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、魅	①今年度の努力点や学校で課題となっていることを積極的に説明し、地域協議会の意見を反映するとともに学校と地域が一体となって課題解決にあたる。	【達成状況】 ◇地域住民の肯定的回答…100→100% ↑ ・①については、教育活動支援部会、子ども育成部会、地域教育推進部会という3部会ごとに、学習支援や児童の健全育成について話

	力ある学校づくり地域協議会と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	②地域コーディネーターと連携を図り、学習支援ボランティアの活動を見直したり拡充したりして、より充実した人材・施設の活用を図る。	し合うことができた。本年度誕生した本校のシンボルキャラクター「きらりん」をモチーフとした「登校班長札」も作成した。 ・②については、年間活動の総括と振り返りを兼ね、地域コーディネーターとの意見交換の場を設け、次年度に向けた学習支援ボランティアの有効活用についての改善を進めた。 【次年度の方針】 ・①については、地域協議会において、学校経営方針をより浸透できるように十分な説明を行うと共に、課題を明確にし、課題解決に向けた話し合いを充実させる。 ・②については、今年度の反省をもとに、地域コーディネーターとの連携を深め、地域の豊富な人材のご協力を得たうえで、引き続き教育活動の更なる充実に努めていく。
教育活動の状況	A10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は時と場に応じたあいさつをしている」⇒児童と保護者の肯定的回答 80%以上	①古里地域学校園や地域協議会と連携した児童会による朝のあいさつ運動、毎週水曜日のあいさつボランティアによるあいさつ運動を継続して行い、あいさつの意識化・実践化を図る。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…89.1→94.2% ↑ ◇保護者の肯定的回答…65.6→77.4% ↑ ・①については、毎週行っているあいさつ運動や古里地域学校園と連携したあいさつ運動の成果もあり、昨年以上にあいさつする習慣が身についたと言える。 ・②については、朝会での校長講話、児童指導主任の呼びかけ、担任の継続的な励ましを行った。また、学級懇談の話題や学年だよりであいさつに力を入れて指導していることを保護者に伝えたり、地域協議会で情報交換を行ったりすることで、学校・家庭・地域が丸となってあいさつ指導に取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・①については、今後も家庭や地域と連携を図って、あいさつの意識化・実践化を図っていけるようにしていく。また、時と場に応じた黙礼ができる態度を身に付けられるようにしていく。 ・②については、児童のあいさつの様子を各種だよりや学級懇談会等で学校側から発信するだけでなく、家庭や地域からも児童の様子を伝えていただくことで、学校・家庭・地域が一体となってより一層指導の充実を図っていけるようにしていく。
		②学級懇談や学校・学年だより等を通して、あいさつの意義や児童の様子を伝え等積極的に働きかけ、学校・家庭・地域が一体となって指導の徹底を図る。	A
	A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は時と場に応じた言葉づか	①相手の立場や時と場に応じた正しい言葉づかいを発達段階に応じてその場で具体的に示し、全校体制でよりよい言語環境へ向けて繰り返し指導する。	B 【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…77.3→91.0% ↑ ◇保護者の肯定的回答…67.7→80.1% ↑ ・①については、職員室に入るときや教師に対しての言葉づかいを全職員が共通理解をし

	いをしている」⇒児童と保護者の肯定的回答 80%以上	②人を傷つける言葉については、徹底的に指導し、児童・保護者・地域住民・教職員の共有のもと、指導の一体化を図り、よりよい人間関係が育んでいけるようにする。	て取り組み、全体的に時と場に応じた言葉づかいができるようになってきた。 ・②については、思いやりのない言動に対しては、教職員が一体となってその場で毅然とした態度で指導することができた。 【次年度の方針】 ・①については、今後も引き続き、丁寧な言葉遣いできていないときには、どの学年においてもその場ですぐに指導するなど、教職員が足並みをそろえて指導に当たっていく。 ・②については、授業での発表の仕方、敬語の使い方を発達段階に応じた的確に指導するとともに、道徳にも力を入れて、よりよい人間関係を構築できるように努める。
	B 2 児童は、互いに協力して活動している。 【数値指標】 独自アンケートの「児童は、学校行事や児童会活動、縦割り班活動などにおいて、協力して活動している。」 ⇒児童、教職員の肯定的回答 90%以上	①学級等において、日常的に協力することの大切さを指導するとともに、道徳の時間においても協力・協調の態度を育む指導を重点化する。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…93.9→98.2% ↑ ◇教職員の肯定的回答…100→100% ↑ ・①については、各学級において学級活動を中心に、協力して活動する機会を意図的に設けたのがよかった。 ・②については、縦割り班遊びの回数を増やすと共に、「きらりんぐらんぷり」の内容を充実したことで、児童がより楽しく協力して活動することができた。
		②学級の係活動や児童会活動、縦割り班活動、学校行事等において、児童が協力して活動する場を意図的に設ける。	【次年度の方針】 ・①については、今後も協力して活動する機会を意図的に設けるとともに、道徳の時間にも一層力を入れて指導に当たっていく。 ・②については、今年度同様、縦割り班での活動の充実を図るとともに、縦割り活動の様子がわかる掲示板を作成し、協調性が育まれるような環境を整えていく。また、「きらりん」を有効に活用して、愛校心を高めながら協力して取り組んでいけるような児童会活動を目指す。
健康・体力	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、休み時間や放課後など、積極的に運動をしている」⇒児童、教職員の肯定	①元気っこ体力チェックの結果を踏まえ、教科体育や体育的行事を通して、児童が目標を決めて進んで取り組めるように、各種の検定やがんばりカードなどを工夫改善し、指導に生かす。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…89.4→89.2% ↓ ◇教職員の肯定的回答…100→100% ↑ ・①については、なわとび検定表に関しては、学校だけでなく冬休みに家庭においても取り組む児童が多かった。しかし、放課後についての児童の運動への意識は低い。 ・②については、基本的に休み時間は教室で

	的回答 80%以上	②北小タイムやロング昼休みなど、児童に積極的に外遊びをするように奨励する。	過ぎず外遊びを励行しているが、学級差が見られた。 【次年度の方針】 ・①については、元気っこ体力チェックの結果の分析をできるだけ早期に行い、対策について全職員で話し合い、実践へと結びつける。また、学校でも家でも日常的に活用できる検定カードを工夫する。 ・②については、外に出て積極的に運動をするよう各学級で呼びかけたり、学級懇談時に保護者に啓発したりしていく。また、運動委員による「運動を推進する取組」を今後も年間行事のバランスを考慮しながら実施する。
	A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、好き嫌いなく給食を食べている」⇒児童、教職員の肯定的回答 80%以上	①食の大切さや楽しさを実感できる学級活動や家庭科の授業を実践するとともに、給食がんばりカードを活用し、食に対する関心を高める。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…78.3→82.3% ↑ ◇教職員の肯定的回答…80.0→88.0% ↑ ・①については、栄養教諭とT・Tで行った学級活動や家庭科の授業や、給食委員会による給食グランプリや紙芝居などの取組が効果的であった。 ・②については、給食の状況について、学級懇談会や学校給食員会で伝えたり、食育だよりに給食室の調理の様子や給食メニューの作り方等の情報発信を行ったりしたことが、食へ関心を高めることにつながった。 【次年度の方針】 ・①については、引き続き栄養教諭とT・Tで授業を行ったり、児童の意欲が深まるようながんぱりカード工夫したりして、食への関心を高めていく。 ・②については、よく食べている食缶の様子を食育だよりに載せるなど、児童が給食をしっかり食べている実態を提供できるようにする。
	B3 児童は、進んで自分の健康づくりに取り組んでいる。 【数値指標】 独自アンケートの「私は、健康に気を付けて、規則正しい生活をしている」⇒児童、保護者の肯定的回答 80%以上	①早寝早起き・朝ごはんの摂取について、家庭と連携を図りながら繰り返し指導する。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…92.1→93.1% ↑ ◇保護者の肯定的回答…87.0→87.2% ↑ ・①については、高い水準で安定している。 ・②については、携帯電話のフィルタリングの通知とともに、視力への影響等についても情報提供を行ってきた。 【次年度の方針】 ・①については、朝ごはんの摂取は100%には至っていないので、今後も担任及び栄養教諭、養護教諭と連携を図りながら、繰り返し指導していく。 ・②については、特に学級活動や保健の授業で、規則正しく健全な生活を送ることの大切さを指導する。また保護者への情報提供と理解を促していく。
		②テレビ、ゲーム機、スマホゲーム等の利用時間や利用方法などについて日常的に指導し、規則正しく健全な生活を送ることができるようにする。	

学 習	A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」⇒児童、教職員の肯定的回答 80%以上	①魅力のある学習課題及び提示の仕方を工夫するとともに、「分かる」「できる」授業の展開に努め、自信をもって意欲的に学習に取り組めるようにする。	B	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…88.9→91.6% ↑ ◇教職員の肯定的回答…96.0→100% ↑ ・①については、体験を伴う学習を取り入れるなど児童が取り組みたくなるような学習課題の提示を工夫してきた。 ・②については、朝の1分間スピーチや会話科の授業で「話す」スキルを磨くように努めてきた。
		②児童が「話す」スキルを習得できるように、積極的にグループ学習を取り入れたり、テーマを決めて話す場を設定したりするように努める。	B	【次年度の方針】 ・①については、児童が自分から進んで表現したくなるような言語活動を重視した学習の展開を工夫していく。 ・②については、自分の五感を通した学びを大切にし、家庭でも手伝い等様々な体験をさせることを重視するよう呼びかけていく。
	A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」⇒児童、教職員の肯定的回答 80%以上	①「学習の約束」「話し方・聞き方の約束」をもとに、学習に取り組む態度や姿勢について、発達段階に応じた指導を繰り返し行う。	B	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…85.6→86.5% ↑ ◇教職員の肯定的回答…96.0→100% ↑ ・①については、月に1度ふり返りをし、全職員で「今年度力を入れていきたい5つのきまり」について共通理解し指導を徹底してきたので、学習に取り組む姿勢や態度が身についてきた。 ・②については、クラブや委員会活動、縦割り清掃等で「ふり返りカード」を活用して、児童の良さを担任に伝えてきた。
		②クラブや委員会活動、出授業、補教等で見取った児童の様子やよさを認め励ましたり、随時担任に伝えたりして、全校体制で児童の指導に継続して取り組む。	B	【次年度の方針】 ・①については、振り返りカードの項目の見直しを図りながら継続的に活用すると共に、児童の学習状況について定期的に話し合う場を設けていく。 ・②については、学習システムの「日々の様子」を活用して、児童のよさを担任に伝えるようにしていく。
	B4 家庭学習を続ける習慣が身についている。 【数値指標】 独自アンケートの「私は、宿題や自主学習を計画的に行っている」⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	①古里地域学校園で作成した「家庭学習のすすめ」を活用し、児童の実態に応じて、宿題及び家庭学習の内容や分量、方法を具体的に示し、家庭学習の習慣化を図る。	B	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…88.0→89.9% ↑ ◇保護者の肯定的回答…67.3→67.1% ↓ ・①については、職員会議などで家庭学習（宿題+自主学習）について話し合い改善を図った。 ・②については、懇談会や学年だより等で保護者に理解と協力を呼びかけてきたが、保護者の肯定的な回答が0.2%下がった。
		②家庭学習の意義や学校での指導内容について、学級懇談会や学年だより等で保護者に知らせ、理解や協力を得られるように努める。	B	【次年度の方針】 ・①については、家庭学習の方法が分からない児童がいることから、各クラスで工夫の見られるノートを写真に撮って掲示したり、印刷して配付したりするなど具体的に示す。 ・②については、学年だよりや学級懇談会の折に、自主学習の大切さを知らせる。また、自主学習の記録については、担任だけでなく保護者にも目を通していただくよう協力を求める。

本校の特色・課題等	B5 自分の考えをもち、進んで表現し、学び合える児童を育成する。 【数値指標】 独自アンケートの「児童は、思ったことや考えたこと、感じたことを、自分の言葉で表現している」⇒児童、教職員の肯定的回答 80%以上	①児童が必要を感じたり、関心・意欲をもって取り組んだりできる言語活動の場を意図的・計画的に設定する。	B	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…90.6→92.3% ↑ ◇教職員の肯定的回答…91.7→96.0% ↑ ・①については、意図的に学び合いをするよう努めてきて、自分の考えを表現できるようになりつつある。 ・②については、昨年度購入したホワイトボードを活用し、自分の考えを式や図、言葉等を用いてわかりやすく発表するように指導してきた。 【次年度の方針】 ・①②共に、アクティブ・ラーニングにおける協働的な学びの重要性を教職員が自覚し、目的をもったペア及びグループ学習を展開する。話合う訓練を継続的に行い、自分の思考の流れをわかりやすく説明できるような手段や方法を発達段階に応じて指導する。
		②ノートや学習プリントに本時の振り返りを記入したり、発表ボードに自分の考え方をまとめたりする活動を充実させ、意欲的に自分の考えや思いを表現できる児童の育成に努める。		

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】○ 児童一人一人のよさや可能性を伸ばし、困難に立ち向かうたくましい児童の育成

- 「生命を尊重する心や思いやりの心など豊かな心、基礎学力の向上、健康や体力の保持増進など、たくましく生きる人間力の育成に努める」という学校経営方針に則り、学校生活全般にわたる学業指導の充実や個別指導、授業改善等に努めてきたことで、昨年度に引き続き、児童からの高い評価指数を維持し、児童の学びを支える安全で潤いのある学校環境づくりを充実させることにもつながった。
- ・「学校の日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている。」「学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。」などへの保護者の評価指標は高い水準を維持し、本年度新たな試みとして公開した「音楽朝会」や「学校公開及び土曜授業等の内容の充実」などが、保護者・地域からも開かれた学校として認識いただく要因になったと推測される。
 - ・「学校は、家庭、地域、企業等が連携して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」「学校は、魅力ある学校づくり地域協議会の経営参画を積極的に進めている。」の評価指数は引き続き高い評価を得ている。今後も地域との連携を深め、学校からの情報発信をより充実させることで、開かれた学校としての効果的な運営を推進していく。

【学習指導】○ 基礎・基本の定着と、言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成 ・ 姿勢や返事、話の聞き方、発表の仕方などの基本的な学習態度の徹底

- ・授業のねらいの明確な提示とねらいに即した振り返りの仕方、構造的な板書等を工夫することにより、児童が主体的に学ぼうとする授業づくりを推進してきたが、十分とは言えない。一人一授業の公開やOJTの活性化を高めることができるような校内研修を充実させていく必要がある。
 - ・各教科等において、基礎的・基本的な知識や技能が確実に定着するように、教材教具や教育機器等（特にICT）を効果的に活用したり、ペア・グループ学習等の学習形態を工夫したりしてきた。今後は、学力調査の分析に基づいた指導のポイントを明確にしたり、教職員の専門性を生かした校内研修を位置付けたりしながら、分かる魅力ある授業を実践していけるように努める。
- 基本的な学習態度の徹底を図るため、重点化して全職員で共通理解し指導してきたので一定の成果が見られる。基礎・基本の定着を図るために朝の学習と家庭学習のあり方についても話し合い指導してきた。次年度はさらに力を入れて取り組む必要がある。
- ・家庭学習は保護者の協力を得ながら計画的・継続的に行うようにしていく。
 - ・「話す、聞く、書く」の言語活動の充実、国語科や会話科を中心に全教科で取り組み、話し合う訓練も意図的に行っているため、思考力・判断力・表現力が少しずつ育ってきている。今後も継続して指導をしていく。

【児童指導】○ 自他の人権を尊重し生き生きと自己表現できる児童の育成
・ きまりを守り、互いに協力し合う児童の育成

- 「きまりを守りマナーを守って生活しているか」の評価指標については、月に1回の振り返りタイムを実施したことが効果をあげ、達成することができたが、さらに、児童の意識を一層高められるような取組や、教職員の足並みをそろえた指導体制を確立していく必要性があげられる。
- ・「いじめ対策の取り組み」についての評価指標については、「いじめは絶対許さない 見逃さない」という全職員の共通理解のもと組織的に指導にあたったことが効果をあげ、児童に関しては十分に達成できているが、保護者に十分に伝わっていない課題が認められる。おたよりやHPなどを通して定期的に学校の取組について発信するとともに、いじめを認知したら、組織的に対応し、保護者への連絡も必ず行うようにする。また、いじめの未然防止や早期発見につながるアンケートの実施やケース会議等も、引き続き定期的実施していく。
- 「時と場に応じたあいさつ」の評価指標については、1年間を通じたあいさつ運動などの取組が効果をあげ、児童に関しては十分に達成することができた。保護者に関しても目標までわずかに届かなかったが、昨年度と比べると十分に効果が出ていると言える。あいさつ運動は、今年度以上に、保護者や地域の方とも連携を図り、地域ぐるみで実施できるようにしていく。また、時と場に応じた黙礼ができる態度を身に付けられるようにしていく必要性もあげられる。
- 「時と場に応じた言葉遣い」の評価指標については、教職員が一体となって取り組んできたことが効果をあげ、他達成することができたが、さらに、教職員が足並みをそろえて指導に当たっていくとともに、授業での発表の仕方や敬語の使い方や道徳の授業にも力を入れて取り組んでいく。
- ・「協力して活動しているか」の評価指標については、各学級において協力して活動する機会を意図的に設けたり、縦割り班の活動を充実させたりしたことが効果をあげ、十分に達成できたが、さらに、児童会活動を充実させるなど協調性が育まれるような環境を一層整えていく。

【健康（保健安全・食育）・体力】○ 自他の健康や安全を意識し、考えて行動する児童の育成
・ 年間を通じた体力向上プログラムの推進

- 「健康・体力の向上」では、今年度も縦割り班を活用して、縦割り遊びの計画や、縦割り班によるなわとび練習などを行った。また、今年度から児童の実態に合わせた新しい「なわとびがんばりカード」の活用をはじめ、なわとび検定証を発行し、児童の意欲付けに努めた。
- ・放課後の運動については、児童も保護者もあまり意識されていない。元気っこ体力チェックの結果を踏まえ、教科体育や体育的行事を通して、児童が目標を決めていつでも進んでできるような取組について提案していく必要がある。
 - ・今年度は、総合訪問をよい機会ととらえ、教職員一丸となって校内の環境整備に努めた。荷物や備品が整理整頓され、学習しやすい環境にはなった。清掃の仕方もだいふ身についてはきたが、個人差が大きい。次年度は、日常的な環境整備に加え、よりよい清掃の在り方を児童自身が身につけることが望まれる。
 - ・今後増々テレビ、ゲーム機、スマホゲーム等の利用が増えてくることが予想される。家庭との連携をより一層深めながら、利用時間や方法などについて日常的に指導し、規則正しく健全な生活を送ることができるよう努める。
 - ・「望ましい食習慣の育成」では、お弁当の日を今年度も古里地域学校園で同日に行うとともに、共通のテーマで行うなど、歩調を合わせて指導することができた。また栄養教諭を活用した授業も展開することができた。好き嫌いなく給食を食べる児童の割合がさらに増えるように、給食指導に力を入れていく。

6 学校関係者評価

【あいさつ】

- ・来校した際に、子どもたちからあいさつを受けないことはない。あいさつがよくなっている。
- ・数年前に比べると、本当にあいさつがよくなるようになった。自然とできるのがよい。
- ・あいさつはとてもよくできている。されると嬉しいし、こちらもあいさつをしたくなる。
- ・班長があいさつをする班はみんなするので、班長に自覚をもたせるとよい。
- ・学校ではできていても、外ではなかなか難しい。こちらからあいさつをすると、不審者と思われる場合もある。顔見知りの場合には、積極的に大人からあいさつをするとよい。
- ・大人がもっとあいさつをするとよい。大人がしていないのに、子どもはなかなかできない。
- ・大人が地域とあいさつをし合う雰囲気をつくり、子どももあいさつができるようにしていくとよい。
- ・自分の子どもが地域の方からあいさつができて素晴らしいと褒められ、子どもの自信につながった。地域住民が、あいさつができる子どもをもっと褒めて、「あいさつってよいことなんだ。」と自覚させられるとよい。

【いじめ】

- ・いじめは、絶対に許されないものである。早期発見、早期対応が大切である。
- ・いじめに関して、児童、教職員、地域と保護者との肯定的回答の割合に差がある。学校での取組が、保護者に伝わっていないのかもしれない。
- ・朝会で校長が話したいじめについての講話が、学校だよりで紹介された。校長のいじめに対する思いが伝わり、とても感動した。このような取組は、今後も、ぜひ続けてほしい。
- ・いじめは、学校だけの問題ではなく、地域との風通しをよくしていくことが大切である。古里地域学校園が丸となり、「この地域は子どものいじめについて真剣に考え話し合っているんだ。」という体制を整えていきたい。

【その他】

- ・休み時間はよく外で遊んでいる。放課後の運動については、児童も保護者も認識が難しい。
- ・昔のように、放課後学校に残って下校時刻まで遊ぶ姿が今は見られないので、放課後の運動が少ないのは仕方がない。休み時間にたくさん遊べばよいのではないか。
- ・地域住民はとにかく地元の子どものかわいしいし、教職員が一番身近で児童に寄り添った指導をしているので、評価が甘くなる。一方保護者は、自分の子どもを対象に見ているので理想が高くなり、どうしても厳しくなるのではないか。
児童の評価が一番正しいのかもしれない。
- ・授業参観や学校公開は、保護者にとって自分の子どもの学校での様子を見る数少ない場である。授業参観を保護者や地域にアピールするよい機会ととらえて、公開内容等を工夫してはどうか。
- ・子どもが高校受験生になり、自主学習の大切さを痛感した。小学校のうちに、自主学習の習慣を身に付けておくことが大切だと思うので、学校でも繰り返し指導をしてほしい。
- ・肯定的割合が上がった下がったと、あまり一喜一憂しなくてもよいのではないか。
- ・先生方には、一定レベルの指導をしてもらっているし、子どもは楽しく学校に通っている。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

（１）健康で明るい子どもを育てる

- あいさつについては、教職員、保護者、地域住民、児童のすべてにおいて、肯定的回答の割合が上がり、特に保護者は１２％、児童は５％向上した。時と場に応じたあいさつの仕方を教職員が一丸となって繰り返し指導してきたことや、児童会を中心に毎週水曜日に実施しているあいさつ運動、さらには地域学校園及び地域協議会との連携で行ったあいさつ強化週間などの取組が、昨年以上に有効であったと言える。また、日中の教職員や保護者、来校者へのあいさつも大変よくなっている。今後は、会釈の仕方も身に付けさせていきたい。また、地域においては、大人が子どもに進んであいさつをしていくことを呼びかけ、保護者及び地域、学校園との連携をさらに深め、「いつでもどこでもあいさつができる岡北小の子ども」の育成を図る。
- 給食の好き嫌いについては、児童の肯定的回答の割合が初めて指標の８０％を超えた。担任と栄養教諭が連携を図りながら進めた給食指導や児童会給食委員会の様々な取組が効果的であったと思われる。偏食は個人差が大きいので、家庭訪問や個人懇談の機会を活用し、家庭との連携を図りながら繰り返し指導を行う。
- 放課後の運動については、児童一人一人の自覚をもたせることが大切である。元気っ子体力チェックの分析をできるだけ早く行い、その結果を踏まえ、児童が個々の目標を決めて自分から進んでやりたくなるような取組について提案していく必要がある。

（２）よく考えて判断できる子どもを育てる

- 今年度は「自他の命の大切さを考え、安全な行動ができる児童の育成 ～予測力・判断力・行動力の向上を目指して～」をテーマに掲げ、安全教育の研究を行ってきた。校舎内外の危険個所の認識やそれぞれの場所

での正しい行動の仕方については、理解できるようになってきた。今後は、日々の生活の中で、自他の命の大切さを真剣に考え、安全な生活を送ろうとする判断力及び実践力を身に付けさせていく。

- 今年度は、「学習のきまり」の中に重点項目を設けた。特に、「次の授業の準備をして、授業開始時刻には席に座って待つ。」、「話を聞く時には、姿勢をよくして発表する友達の方を見て聞く。」、「名前を呼ばれたら元気よく返事をする。」という3項目については、全職員共通理解のもと指導にあたってきたこともあり、基本的な学習習慣を身に付けられる児童が増えた。今後も、学習習慣については、全職員で繰り返し指導する。
- 「家庭学習の進め方」については、学年の発達段階に応じて継続指導してきたが、計画的に宿題や自主学習を進めることについては、個人差が生じている。よりよい自主学習のすすめ方を繰り返し指導するとともに、家庭との連携を図りながら、進んで学ぼうとする態度を育てる。
- 本時のめあてを的確に示し、めあてに照らした振り返りを行うこと、構造的な板書を行うことを目標に、教員一人一人が公開授業を行った。今後も、「分かりやすい授業」を展開できるように、また、よりよい指導法を身に付けられるよう、お互いに切磋琢磨しながら指導力の向上に努める。

（３）思いやりのある子どもを育てる

- 児童の気になる言動を見逃さずに、迅速に対応するとともに、「いじめに関するアンケート調査」、「なんでも相談」を定期的実施するなど、組織的な対応を行ってきたが、いじめ防止に関わる様々な取組について家庭や地域に計画的に啓発することができなかった。来年度は、本校のいじめの状況や児童会の取組等について、積極的に発信する。
- 「いじめは絶対に許されない行為」「命の大切さ」「思いやりの心」をねらいとした道德教育の充実を図る。道德教育推進教師を中心に、児童の実態に合った教材開発を進めるとともに、道德授業の公開を積極的に行い、保護者や地域の方々にも見ていただき、家庭においても「いじめ」・「命の大切さ」・「思いやりの心」について話し合う機会をつくる。また、地域学校園としても、「いじめ」について語り合う場を設け、地域ぐるみでいじめの防止に努める。
- 特色ある学校づくりとして、本校のシンボルキャラクター『きらりん』の作成に向けて児童会等の主務者を中心に校内組織を活性化することができた。『きらりん』を活用した縦割り班活動を展開し、『きらりんグランプリ（校内ウォークラリー）』は、昨年以上に充実した内容となった。本校では、集団登下校、縦割り班活動、縦割り班清掃、ペア学年による縄跳び検定などの場において、上級生の児童が下級生の児童に丁寧な教えたり優しく関わったりする姿が多々見られる。今後も異学年交流を推進し、よりよい人間関係づくりに努める。

（４）ねばり強く進んで実践する子どもを育てる

- 学期始めに児童が立てた目標を振り返る場を設け、自分のめあてに向かってどのように努力していくかを具体的に指導してきた。また、キャリアコーナーには、現時点での将来の夢を掲げている。授業中だけでなく、学校行事、清掃、休み時間の活動などにおいて、よさを認め励ます言葉かけを行い、自己肯定感を高められるようにする。

（５）開かれた学校づくりを進め、地域に根ざした教育活動の推進に努める

- 地域コーディネーターや地域連携教員を中心に、学習支援ボランティアや出前授業を取り入れた授業を各学年とも積極的に行っている。学校だより・学年だより・地域協議会だより等で積極的に発信したこともあり、家庭や地域に周知されるようになってきた。今後も、授業参観、土曜授業、学校公開授業の場で、学習支援ボランティアと共に行う授業を公開したり、課題となっているトイレ清掃等の環境支援ボランティア活動を新たに導入したりするなどして、地域の教育力を活用した教育活動の充実を図る。